

<プログラム>



<団員名簿・出演者名簿>

< Sop. >											
※阿久津	巴合	田友	紀志	賀友	加里						
☆内澤	祥子	木美	※高	橋美	織子						
☆小田	和ク	々々	竹田	中村	子子						
兼田	ニ子	々々	中藤	井木	子子						
金成	紀美	々々	藤本	木奈	子子						
※鹿糠	佳朋	佐佐	未央	保美	子子						
< Alt. >											
※阿部	一葉	佐々	外	館光	代子						
※尾野	和ゆ	※新	松吉	尾智	洋穂						
鎌川	光富	☆高千	孝賀	原典	子子						
尾形	利夫	越戸	國雄	※新	山隆						
※勝部	健次	園中	照攻	※沼	田村						
門脇	次晃	中	野	※藤	隆臣						
熊谷	平彌	千照	誠隆	※平	野原						
※伊藤	陽喜	日	輝夫	※藤	内						
工藤	尚史	岩手	岩手	米	廣						
佐藤	岩手	岩手	岩手	大	滋						
※印	岩手	岩手	岩手	大	滋						

<主な活動> 2008年 平成20年

- 1/10(木) 歌い初め
- 4/11(金) デュオ・クリシャルチャペルコンサート
- 5/15(木) 坂本かおる先生レッスン
- 5/25(日) 第37回盛岡芸術祭(市民文化ホール)
- 7/20(日) 第42回定期演奏会(盛岡市民文化ホール)
- 8/3(日) 米沢混声合唱団第10回定期演奏会参加
- 8/21(木) 総会
- 10/28(火) 佐藤洗「四季を歌う会(傘寿記念)」後援
- 11/1(土) コーラスライット風第20回定期コンサート(譜代)賛助出演
- 11/14(日) 「松田晃・順子合唱指揮105演奏会」出演
- 12/12(日) 岩手芸術祭合唱祭(県民会館)出演
- 12/20(月) 忘年会

- I 7つの子ども歌 信長貴富 編曲
- 指揮 山田靖了
- 1 一番はじめは わらべうた
 - 2 通りゃんせ わらべうた
 - 3 江戸の子守歌
 - 4 ずいずいずっころばし わらべうた
 - 5 三地方の子守歌
 - 天満の市は 大阪地方の子守歌
 - 寝るじゃ寝るじゃ 青森地方の子守歌
 - 五木の子守歌 熊本地方の子守歌
 - 6 あんたがたどこさ わらべうた
 - 7 ていんさぐぬ花 沖縄わらべうた

- II 混声合唱組曲二度とない人生だから
- 坂村真民 作詩/鈴木憲夫 作曲
- 指揮 山田靖了
- ピアノ 及川理子
1. 念ずれば花ひらく
 2. 花・ねがい
 3. 妻を歌う
 4. つゆのごとくに
 5. からっぽ・サラリ
 6. こおろぎ
 7. 二度とない人生だから

III みんなで歌いましょう

IV 聖チェチリーア荘厳ミサ曲
MESSE SOLENNELLE ST CECILIA MASS
Charles Gounod (1818-1893) 作曲

- Kyrie
GloriaA
Credo
Offertoire
Sanctus
Benedictus
Agnus dei
- ソプラノ 高鏡野 子
テノール 小原 貴
バリトン 武澤 一
エレクトーン 及川 えり
ピアノ 佐藤 靖
指揮 山田 靖了

常任指揮者	山及	田川	靖理	了子
ピアニスト	及佐	藤野	次紀	洗攻
委員長	中門	脇木	光和	郎子
副委員長	佐々	田村	富喜	治志
会計	外太	藤村	尚雄	治農
パートリーダー	川藤	佐藤	黒	
実行委員長	山及	田川	靖理	了子
ステージマネージャー	及佐	藤野	次紀	洗攻

ご挨拶

委員長 中野 攻

今宵は混声合唱団「北声会」第42回定期演奏会にお越し頂きまして誠に有り難うございます。

最近「後期高齢者」なる語が横行し、「末期高齢者だ」などの皮肉まで出ております。その波は、非情にも我が「北声会」にも押し寄せて参りました。思えば、「北声会」の前身である「NHK盛岡放送合唱団」の当時から合唱団に所属していた人たちも、そのまま4、50年経って現在も歌っているわけですから、当然のことではあります。

しかし、何と！この「後期高齢合唱団？」に、この1、2年の間に、高校生の女の子2人と大学生の女子2人、そして20代の女性が1人入団したのです。平均年齢で言うと、「前期高齢合唱団？」に若返ったのです。我々高齢者も負けずに大いに発憤して若さを保つべく努力しているのは勿論です。お陰様で、「歌っている人って、いつまでも若いね」と言ってくれる人が大勢います。皆さんも如何ですか？一緒に歌っていつまでも若さを保ちませんか？

さて、昨年一部分を演奏しましたグノーの「聖チェチーリアの荘厳ミサ曲」を、今回は全曲演奏することになりました。一般募集のお2人と岩手大学の学生さん16人の力を得て、今回は一層重厚で華やかで繊細な演奏ができるものと思います。どうぞ期待下さい。

また、昨年好評だった「みんなで歌いましょう」では、「来年は是非ステージで歌いたい」と言う感想が寄せられました。今回は皆さんの登壇でステージが狭くて困ると言う苦情が出るほどになればと期待しています。このステージを、「北声会の定演に行けば、ステージで歌える」と言われるように、「北声会」の定番と位置づけ、来年以降はさらに充実した楽しいものになりたいと思っております。来年はどんな歌を歌いたいのか、アンケートにご記入下さい。

順序が逆になりましたが、第2ステージ「二度とない人生だから」の中の「妻を歌う」では、高齢化に伴って認知症？になった妻を大きな愛情で包み込み、「子供か、神か、仏に近い人となる」と歌い上げます。道端にある、名もない花や虫たちにまで思いやりの心を持って見つめて生きていこうと、我々の忘れていた心に呼びかけます。

第1ステージは、皆さんの知っている「わらべ歌」です。一緒に楽しんで頂ければ幸いです。

どうぞ、最後までごゆっくりお聴き下さい。そして、今後のご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

「二度とない人生」だから

常任指揮者 山田 靖了

合唱曲の詩人から、いろいろな考え方や教えなどを教わってまいりました。

坂村真民さんの詩からは、「人はどう生きたらよいか」との命題と「生きる希望、勇気、力」を与えられます。日頃安穩としていただけに、「二度とない人生」を考えさせられ、いま「言葉の重み」と対峙しています。

2002年に生まれた女声合唱曲「二度とない人生だから」は、曲の美しさと坂村真民さんの優しい詩に魅了されて長い間歌われています。やっと2007年7月に混声合唱が出版されました。

折りも折れ、「この曲は、最近中学生にも歌われているようです。詩自体が老若問わず、どの世代にも響くものをもっているとします」とのメッセージを作曲者鈴木憲夫先生からいただきました。

ところで、3月まで放映のNHK朝の連続ドラマ「ちりとてちん」で、次のような印象的な場面がありました。

塗り箸職人の和田正太郎が孫の小学生、喜代美（後の若狭）に話しかけるシーン。

「塗り箸の作り方知ってるか。人間も箸と同じや。といで出てくるのは、この塗り重ねたもんだけなあ。一生懸命生きてさえおったら、悩んだことも落ち込んだことも、きれいな箸になって出てくる。お前のなりたいもんになれる。お前はぎょうさん笑え。一回きりの人生や。ぎょうさん笑うた方がええ」

「おじいちゃんの言葉を頼りにずっと生きてきたんです。」成人した若狭が述べ懐きます。

ここでも「二度とない人生」について考えさせられました。

今回は、信長貴富による洒落た編曲「7つの子ども歌」、メンバーそれぞれが想いを込めた「二度とない人生だから」、グノーの「聖チェチーリアのミサ」(全曲)には、新鮮な気持ちと新しい出会いをもって取り組んでまいりました。「みんなで歌いましょう」では、どうぞ声高らかに歌い下さい。「ぎょうさん歌え！一回きりの人生や！ぎょうさん歌った方がええ！」です。

今日まで、実に多くの方々からご支援をいただきました。衷心より厚くお礼申し上げます。ソリストの高野さん、鏡さん、小原さん、エレクトーンの武澤さん、そして今回ピアノを弾いて下さる及川理子さん、5人の方からは、感性あふれる豊かな音楽で一層の色彩を添えていただきました。

今回もまた、岩手大学教授佐々木正利先生からは特段のご支援をいただきましたし、岩手大学の学生さんからは青春真っ盛りのエネルギーをもらい、一般参加の高橋さん、内澤さんにもご一緒いただき、熱い「グノーのミサ曲」を演奏出来ることになりました。

「二度とない人生」、今年も元気に演奏出来る幸せと喜びをかみしめております。

どうか今後とも何かとご指導ご支援下さいますようお願い申し上げます。

※詩人 坂村真民（さかむら・しんみん 1909～2006）



高野 こずえ

盛岡二高、宮城学院女子大学学芸学部音楽科声楽卒業。武田敏子、故菅野絢子、丸岡千奈美、鎌田滋子の各氏に師事。'98年岩手芸術祭、'99年盛岡芸術祭に出演。一昨年は北上市でモーツアルトの「戴冠ミサ曲」のソリストを務め、好評。また、歌劇ではJ・シュトラウスの「こうもり」のロザリンド、メノッティの「チップと犬」の少年チップ役で、会場と一体化した役作りをする。昨年9月にリサイタルを開催。

北上声楽研究会所属。メサイアを歌う会、ラ・ムジカ会員。音楽教室主宰。



鏡 貴之

岩手大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程終了。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、多田羅迪夫の各氏に師事。主にオラトリオ、宗教曲のソリストとして活動中。特に、J.S.バッハの作品では多数のカンタータのソロを務め、活動の中心となっている。他にはモーツアルト「レクイエム」、「第九」、藝大合唱定期でブルックナー「テ・デウム」など。オペラでは、モーツアルト「魔笛」のタミーノ、僧侶、武士役。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、藝大バッハ・カンタータ・クラブ、東京21合唱団、日本発声学会、グルッペ・ベッヒライン、各会員。バッハコレギウムジャパン、メンバー。東京ムジーククライス、東京バッハ合唱団、各ヴォイストレーナー。



小原 一穂

盛岡一高、岩手大学教育学部音楽科卒業。東京学芸大学大学院修士課程修了。森肇子、今関由紀子、中村義春、移川澄也、佐々木正利、P.フッテンロッハーの各氏に師事。H・クレッチマー、K・ヴィトマーにリート及び宗教曲の歌唱法を学び、高い評価を得る。宗教曲を中心に、「第九」「森の歌」等の演奏会にソリストとして多数出演する他、創作オペラ、ミュージカル、音楽劇の主要キャストを務め好評を得ている。盛岡市等でリサイタル開催。

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインのコンサートマスター。盛岡市立城西中学校勤務。岩手大学非常勤講師。





混声合唱団 北声会 第42回定期演奏会

2008年7月20日 盛岡市民文化ホール 大ホール



混声合唱団 北声会 第42回定期演奏会

2008年7月20日 盛岡市民文化ホール 大ホール

「みんなで歌いましょう」



混声合唱団 北声会 第42回定期演奏会

2008年7月20日 盛岡市民文化ホール 大ホール





001-043

第61回 岩手芸術祭 合唱祭 2008年11月16日 岩手県民会館大ホール